

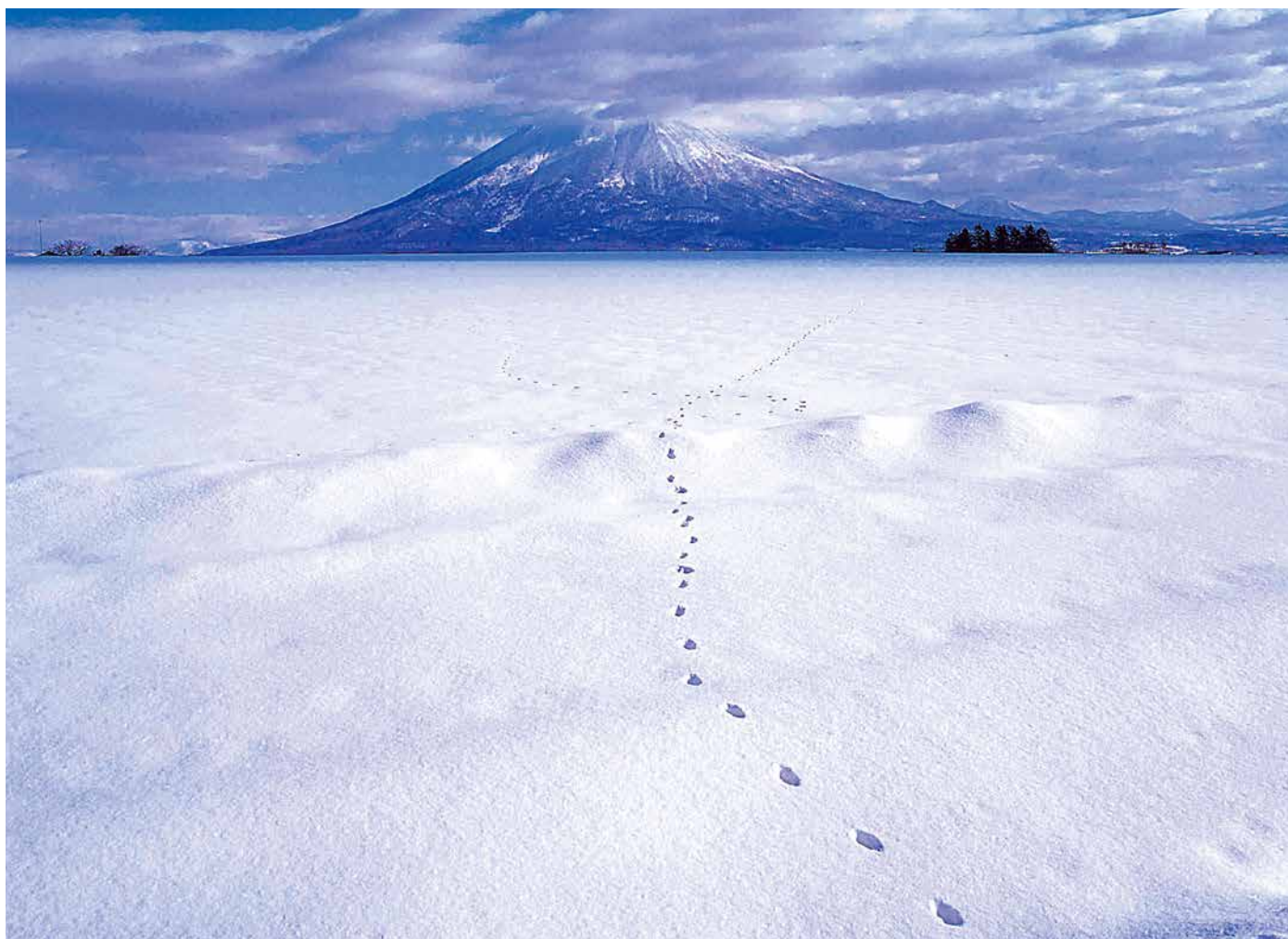


ほっかいどう
生涯学習
Lifelong Learning

ホームページアドレス <http://www.hsgk.jp>

新しい自分との

出会いや発見がきっとある



目次

●年頭のご挨拶	2	●私の生涯学習	5
●平成30年度生涯学習実践者奨励表彰	2	●懐かしのフィルム上映会	5
●寄稿「22歳の決断」	3	●随想44	6
●わがまちの生涯学習	4		



年頭のご挨拶

公益財団法人 北海道生涯学習協会

会長 宇田川 洋

新年明けましておめでとうございます。皆様には健やかな新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

当協会において公益目的事業として実施している各種事業に対しまして皆様には深いご理解とご支援をいただき心よりお礼申し上げます。

本道はかつて「蝦夷地」とよばれていましたが、1869（明治2年）に松浦武四郎が「北加伊道」を含む6つの名前を候補とする意見書を明治政府に提案し、8月15日に太政官布告によって北海道と命名されました。昨年は北海道と命名されてから150年の節目を迎え、当協会としましても道民のニーズや今日的課題に焦点をあてた「ほっかいどう学かでの講座事業」を「北海道150年事業 北海道みらい事業」に登録し4月から12月まで10回開催しました。札幌会場はじめ旭川市・標津町にも同時中継し多くの参加者を得て成果をあげることができました。

当協会が、北海道教育委員会より受託している道民カレッジ事業では、主催事業として地域で活動する際に必要な知識や技術に関する内容をインターネットで配信する「地域活動インターネット講座」を2本制作しました。インターネット環境にない学習者のためにDVDの無料配布やレポート作成にむけた学習会を開催するなど学習支援に務めているところです。昨年度まで制作していた「ほっかいどう学大学インターネット講座」は平成28年・29年度分をインターネットで配信しレポートの受付をしています。

道民カレッジ生が行っている地域活動をレポートにまとめ、その交流をとおして道民カレッジ生の地域活動へのより一層の参画を促す「地域活動実践講座」は、町内会や自治会活動を交流のテーマとして実施し、積極的な意見交流がみられました。

地域の様々な機関や住民と連携し地域づくりやまちづくりに貢献する人材の育成のための参画型講座である「地方創生塾」は2年目の美幌町・羅臼町に加えて新たに苫前町・上士幌町で実施しております。

道民カレッジ事業に賛同する産学官が実施する講座やセミナーを体系化した「連携講座」は3学科7コースに分類し、多くの道民の方々が道内各地で自分の学びたい講座を選び自己の向上に向けて学んでおります。昨年11月末現在で100単位以上取得し学士・修士・博士の称号を得られた方は、全道で2,200名余おられ、さらに1000単位以上取得され学長奨励賞を得られた方は211名おられます。今年度は連携講座の登録数も5000講座を越えるなど着実に生涯学習の学びが広がっていると思います。

また、当協会では、生涯学習社会の実現に向けた実践において、功績のある個人・団体を表彰し、その功績に報い、もって道民の生涯学習の振興に寄与することを目的に「生涯学習実践者奨励表彰」を設けており今年度は1団体3個人を表彰したところであります。

公益財団法人北海道生涯学習協会といたしましては、今後とも道民一人一人の生涯を通じた自発的な学習活動を支援し、北海道らしい生涯学習社会の充実・発展に取り組んで参りますので、本年も皆様方の一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

皆様の益々のご健勝とご発展をご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

【平成30年度生涯学習実践者奨励表彰】

※敬称略（五十音順）

（団体）

・プラチナの会（札幌市）

（個人）

・秋江 慶子（帯広市） ・川村 博（旭川市）

・山田 芳二（札幌市）

「22歳の決断」

北海道科学大学

教授 松田 寿

2017年3月に神奈川県にある電機メーカーの研究所勤務を定年退職し、28年ぶりに札幌に戻ってきた。幸いにも大学に職を得ることができ現在は教授として働いている。

そんな私が勉強の大切さを本当に知ったのは大学を卒業して初めて勤めた会社である。飛行機が好きで、大学卒業後は航空機製造・整備を行っている企業に一度就職した。しかし入社して初めて、会社で働くということはどういうことなのか？ どんな職種があるのか？ 現実を改めて知った次第である。学部仲間が工場研修に行き、修士に進む勉強をしている時に部活動（バドミントン）に熱中しており、就職活動の大切さを認識していなかったというのが本当のところである。就職研究が甘いと非難されても仕方がない。しかし、もう一度勉強したい、研究したことを開発につなげる研究職に就きたいと真剣に考えるようになった。そのためには専門の勉強を重ねる必要があった。勤めた会社では実現できないのか？ 単なる我儘ではないか？ この年の夏から秋ほど、悩み・考えぬいた時期はない。

運命の巡り合わせか、この年は夏の大学院入試が定員割れで、翌年2月に2次募集があることを知った。12月まで働けば賞与がでる、それを学費に使いなさいとの有難い上司の言葉を胸に12月まで勤務し退職、2月の受験に備えたのであった。多くの人に迷惑をかけてしまった、絶対にこの受験を失敗することは出来ないと、試験までの2か月間は正に缶詰状態で受験に備えたものである。勉強の介あって希望の研究室に無事配属されたのが4月である。9か月足らずの社会人生活であったが、学ぶことの大切さ、講義を受けられることの喜び、有難みを本当に知ることができたと思っている。お陰で大学院ではどの講義も食い入るように受講した。幸いにも良き指導者、良き研究テーマに恵まれ、工学博士の学位も得ることもでき、大学院修了後は広く流体工学を応用できる神奈川県の電機メーカーへと再就職したのである。

電気メーカーでは念願の研究職につき、タービン翼の直径数mm程の冷却孔から数10mの高さにおよぶ煙突流れまで、また家庭用エアコンの数m/sの流れから100m/sを超える高速車両に関連する問題まで、実に様々な流熱機器の開発・改良・トラブル対策に取り組むことができた。これらの研究はそれぞれに興味深い課題があり、まさに研究のために勉強することで給料をもらっていた感覚であった。自分が面白いとおもって研究することが新製品の開発に繋がる。トラブルを解決できる。設計部隊に役立つ。28年間、本当に楽しく有益に過ごすことができた実感している。

役職定年を迎える2,3年前からは非常勤講師や客員教授の声をかけていただいた。また福井県の研究センター出向時に紹介を得た雪氷エネルギー研究が縁で本文を寄稿する機会も得られた。いろいろな人との出会いが自分をここまで成長させてくれたものと感謝の気持ちで一杯である。

幸いにもこれから社会に巣立つ若者に教育できる機会を得た。今後は大学で学ぶ専門科目（流体工学）がどのように実際の仕事と繋がっていくのかを実学として教えると共に、前職では中断されてしまった流れの制御デバイス（プラズマアクチュエータ）の研究を再開したいと考えている。こうした夢のある先端技術を研究することで学生にも流体工学の面白さ、重要さを解ってもらえればと思っている。自分の思いが学生に少しでも伝わり、これからの社会にいくらかでも恩返しすることができれば本望である。

22歳の決断がこのような道を開いてくれたものと感慨深いものを感じる。勉強の大切さを身をもって知る毎日である。

わがまちの生涯学習

比布町教育委員会

教育長 北川 範之

雄大な大雪山連峰を南西に仰ぐ比布町は上川盆地の北東部にあり、旭川市、愛別町、当麻町、和寒町、士別市に隣接しています。面積は86.90平方キロメートル、人口は約3,800人で上川農業試験場があり、ゆめびりか誕生の地、スキーといちごのまち、そして、世界一大雪山がきれいに見える町です。

第5次比布町社会教育中期振興計画の基本方針である「いつでも、どこでも、だれとでも」学習活動や文化活動、スポーツ活動に親しむことのできる生涯学習の推進を図っています。

■将来の夢に繋げよう「君の夢プロジェクト」

中学生の「夢」を応援しようと、一流選手によるスポーツ技術指導や一流ミュージシャンの演奏指導などを受けています。また、修学旅行で首都圏の文化・芸術に触れる機会も作っています。他にも、札幌ドームを貸し切って野球部が試合をしたり、東京などで開催される卓球や剣道などの全日本大会を観戦したりしています。

また、3年に一度著名人を招いて講演会を開催しています。本年度は、「思うは招く」と題し、(株)植松電機の植松努氏から、夢を叶える方法についてお話いただきました。講演後は、実際にモデルロケットを作成し、全校生徒がロケットを打ち上げ、子どもたちの夢と可能性を応援することができました。



君の夢プロジェクト「モデルロケットの作成」

■学習習慣の定着をはかる「ぶっくん寺子屋」

小学生の長期休業中の家庭学習支援として、教育大学生、教員OBの方たちに小学生の勉強をみていただいています。地域における人的資源の活用、地域住民と子どもたちの出会いの場の提供及び教員を志す学生の実習の場にもなっています。

■町民みんなで「生涯スポーツの推進」

体育協会やスポーツ少年団等の関係団体と連携し、スキー、剣道、卓球、バレーボール大会等、町民が運動をする機会を多く作っています。「町民スポーツフェスティバル」では子どもから大人まで、多くの町民が運動適性テストにチャレンジするなど、体力の維持・向上に向けた取り組みを行っています。

また、ぴっぷスポーツクラブ主催でフロアカーリング大会、ミニバレー大会が開催され、軽スポーツを通じた町民交流が図られています。

■おわりに

来年度から、本町では「小中一貫教育」と「コミュニティ・スクール」が本格的にスタートします。学校や地域住民・保護者が連携・協働し、社会総がかりで子どもたちを育てていきます。子どもたちの学びや体験が充実し、自己肯定感や思いやる心が育つとともに、ふるさとぴっぷを愛し、地域の担い手としての自覚が高まる生涯学習の充実を図っていきます。

私の生涯学習

道民カレッジ生（札幌市）

牧田 武治

リタイヤしたのは19年前のことである。趣味を持っていないことから、これから何をしようかと迷ったが、ひとまず地域の町内会活動に役員として参加することにした。当時の町内会活動と云っても年間を通じて大きな行事としては、冬場の除排雪、神社祭と連携のイベント、春秋の町内一斉清掃、運動会等の他、日常的な活動としては、ゴミステーションの整備、街路灯のチェック、少年野球の支援等とあまりハードな活動ではなかった。時間的余裕があるので当時の北海道森林管理局が実施していた「森林に関する講座」のなかで、浜益村黄金山登山、ニセコの神仙沼巡り、余市岳登山等に参加したり、定山溪自然の村主催の定山溪朝日岳や、小天狗岳の軽登山などに健康維持のつもりで参加したりもした。

平成12年4月に当時の北海道産業観光部が主催による「観光イベント学校」が開講され、それに入学しイベントに関する講義を実習を含めて半年間学んだ。40名ほどの受講生がいたがその中には西区にある三角山を中心に活動している市民グループの代表である石島氏がいた。終講と同時に石島氏の音頭で、伊能忠敬が今から218年前徒歩で、18年掛けて日本全国を実測したことにあやかって、有志10名で「北海道一步踏み出す会」を結成。結成イベントとして伊能忠敬に扮して「三角山登山」を実施したのである。その後、忠敬が日本全国を実測して作成した伊能図「大日本沿海輿地全図」大図の一部が見つかり、214枚全部が揃ったとのことで、全国的に地図展のイベントが展開された。北海道でも札幌を始め帯広、釧路、旭川、留萌の各地で国土地理院北海道測量部主催の地図展が開催され、そのうち札幌、旭川、留萌の三会場には参加客の説明員として会を代表し、伊能忠敬に扮して参加したのである。（後「北海道一步踏み出す会」は解散）

その頃、円山地区で活動している交流クラブにも参加しており、そのグループ仲間の一人から平成12年2月に、道民カレッジの存在を紹介されたのである。カレッジ講座は種類も多く、バラエティに富んでおり、始めのうちは好きな講座を漠然と受講していたのであるが、まずは5科目の全博士号を取得することに目標を定めた。約7年と8ヶ月で平成28年10月に5科目の全博士号を取得することができた。また、平成30年9月には4,000単位の「道民カレッジ学長奨励賞」をも取得することができた。

人生は「生涯学習」と云われているなかで、傘寿を迎えてたが、道民カレッジ講座で昨年新設された「地域活動コース」の博士号取得を目指こと、各種講座で学んだことを地域活動（町内会活動）に活かしながら「人生100年時代」にどこまで「健康寿命」を伸ばせるか、あまり無理をせずに道民カレッジ「生涯学習」に励みたいものと思っている。

「懐かしのフィルム上映会」を開催しています!!

視聴覚センターでは、10月から毎月2日間16mmフィルムを活用し視聴覚教材の普及啓発と試写室の利用促進を図ることを目的として「懐かしのフィルム上映会」を開催しています。毎回、試写室が満員になるほど賑わいを見せ、特に、古いフィルムによる映像や音声の乱れが「昔の映画館のようだ」との感想もあり好評を得ています。

1月と2月には昭和20年代後半に公開された外国の懐かしのフィルムを上映する予定です。是非ご来場ください。



随想44

亡憂君の目指すもの

以前に、大酒飲みのことを「亡憂君」、酒のことを「亡憂物」と称したのは中国東晋時代の詩人の陶淵明（365～427年）であったと紹介したことがある。彼の「飲酒二十首」に次のようにある。

余閑居して喜び少なく、兼ねてちかごろ夜、すでに長し。たまたま旨き酒あり、夕として飲まざる無し。…たちまちにまた酔う。既に酔って後は、すなわち数句を記して自ら楽しむ。…

彼は若くして琴と書・詩を学んだとされ、無弦の琴をたずさえ、酔えばその琴を愛撫して心の中で演奏を楽しんだとの逸話があるそうである。

唐の詩人白居易（＝白楽天。772～846年）も名言を残している。酒に対するという「対酒」の一つ。カタツムリの角のようなところで人は何を争うのか。火打石の火花のように一生ははかない。富んでいようと貧しかろうと酒を飲んで楽しむべきだ。酔って快く笑わない者は愚かな人というべき。

そして琴を弾いては酒杯を挙げ、酒を飲んで詩を吟じ、この琴・酒・詩を三友と称したという。

我が国にもこのような亡憂君はいたらしい。江戸時代の陽明学者の頼山陽（1780～1832年）はやはり酒をこよなく愛し、白雪・剣菱・男山などの銘酒を詩歌や書簡の中で何度も称えたといわれる。そして文化サロンを開き、文人達が集まる琴

会（七弦琴を愉しむ会）に足を運んだという。亡憂君が目指していたのは、琴・書・詩などとのセットなのか。単なる飲ん米ではないのだ、と密かに思う。

酒を愛し、酒を友とし、自由律俳句を自分のものにしたのは種田山頭火であろう（1882～1940年）。明治～昭和を生きた山口県出身の行乞僧で、その自由な句は酒にまつわるものが多い。飲ん米の托鉢僧を受け入れた日本人の宗教観もすごいと思うが。

ほろほろ 酔うて 木の葉ふる
酔うて こほろぎと 寝てみたよ

こんな飲み方をごく普通にできた人物は幸せ者なのであろう。たくさんある名言（迷言）の中からの一つ二つ。

・生きるとは味ふことだ。酒は酒を味ふことによって酒も生き、人も生きる。しみじみ飯を味ふことが飯を食べることだ。

・私はどうやらアルコールだけは放棄することが出来たらしい。酒は…飲まないではいられないけれど、アルコールの奴隷にはならないで、酒を味ふことが出来るやうになっただけ。

今回は、東京大学の漢文学者斎藤希史教授の「友をえらばば」というエッセイを読んでヒントを得て、綴ってみた次第である。

（公財）北海道生涯学習協会
会長 宇田川 洋

本年もご寄付いただき ありがとうございます

平成30年10月31日（一社）札幌ゴルフ倶楽部様から、社会教育事業に対する助成として、ご寄付をいただきました。

●表紙写真提供 三原和廣氏

編集後記

新年あけましておめでとうございます。

ここ数年は自然災害が続いており、特に昨年は北海道においても、7月の豪雨や胆振東部地震など大きな被害がありました。被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

一方では、「北海道命名150年」で様々な記念行事が催されましたし、平昌五輪・カーリング女子日本代表「ロコ・ソラーレ北見」の「そだねー」という言葉が「2018

事務局からのお知らせ

●賛助会員を募集しています

当協会では、会員の皆様のご支援ご協力により各事業を実施しております。

つきましては、当協会の賛助会員を募集しておりますので、よろしく願いいたします。

※賛助会員（個人 一口3,000円、団体 一口10,000円）
詳しくは事務局までご連絡ください。

（札幌市中央区北2条西7丁目 かでの2・7

TEL011-281-6661）

ユーキャン新語・流行語大賞」になるなど、北海道が注目された年でもありました。

今年も元気のいい北海道であり続け、皆様にとって素晴らしい年になりますことをご祈念いたします。

当協会では今年も、多くの道民の皆様の学習活動を支援できるように、各種事業を推進してまいりますので、皆様のご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。